

大豆NEWS!

vol110

国産大豆で「学習」しながら楽しく美味しい給食を！
～全国学校栄養士協議会支部長会議で呼びかけ～

12月20日、学校給食の要となる栄養士の全国団体（全国学校栄養士協議会）の支部長会議が、東京都千代田区の国立教育会館で開催されました。各都道府県支部の代表者が百名近く参集する中、特別に時間をいただき、農林水産省畑作振興課から、国産大豆を学校給食に取り入れていただくための呼びかけを致しました。

まず、最近の国産大豆をめぐる事情として、生産量が増加していることや、平成12年産から取引の仕組みと交付金制度が見直されることから、

地元の大豆が入手しやすくなること

市場の評価に敏感な大豆生産が行われるようになること

大豆の需要拡大に対しての産地の取組みが強化されるようになることをアピール。

今後は、全国、都道府県、産地の各段階において、学校給食関係者と生産関係者との交流を深め、国産大豆の給食への導入を進めていきたい旨を説明し、給食関係者の理解と協力を求めました。

これに対し、全国学校栄養士協議会の代表である田中名誉会長から、「平成14年度から文部省の指導要綱が改訂され、総合学習が本格的に導入されることとなる。このため、国産大豆の導入に取り組むことは非常に意義がある。栄養・機能面から大豆が重要であることに加え、地域と連携して大豆生産や加工の学習ができる等、非常に拡がりのある取組が可能。また、遺伝子組換え問題から輸入大豆に対する不安感があり、国産品のニーズが高い。学校栄養士協議会として、この問題に積極的に取り組んでいきたい。」と非常に力強い応援の声をいただきました。

農林水産省としては、今後とも国産大豆に関する情報の提供に努めるとともに、大豆の健康機能に関する資料等を作成し、栄養士の皆さんの活動に役立てていただく予定です。

また、前号（vol.9）でもお伝えしたとおり、現場で実際に国産大豆が導入されるか否かは、産地における学校給食関係者への働きかけが最も重要だと考えています。国産大豆が、地域の子供達に愛されるよう、また、子供を通じて地域の食卓全体に広がっていくよう、市町村・農協の積極的な取組をお願い致します。

発行：不定期

発行元：農林水産省畑作振興課 豆類班 tel 03-3502-8111

内線 E-mail

豆類班長 鈴木良典 4333 yoshinori_suzuki@nm.maff.go.jp

農産園芸専門官 河合亮子 4318 ryoko_kawai@nm.maff.go.jp

大豆企画係長 後藤 寿 4319 hisashi_gotou@nm.maff.go.jp

大豆指導係 一関英樹 " hideki_ichinoseki@nm.maff.go.jp

- ・記事や大豆生産振興に関する御質問・御感想など、ご自由にお寄せください。
- ・記事を転載される場合は、御一報ください。